

(国語科)

生きてはたらく言語力の育成
～説明的な文章の学習を通して～

大阪市立築港小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校経営の重点「仲間を大切に互いに協力し、ともに学び合う子どもを育てる」のもと、平成 25 年より 4 年間、国語科の研究に取り組んできた。全国学力・学習状況調査等の国語科の結果では、「書くこと」「読むこと」において弱い面が見られる。また、日常の生活においても相手の意図することが分からないために友だちとトラブルになったり、語彙が少なく、相手に対してどのような言葉を選んで表現すれば良かったのか判断できなかつたりする場面があった。

そこで、そのような児童の実態や、これからの社会で求められる力を考えた際、実生活に「生きてはたらく言語力の育成」が必要と考えた。昨年度は文学的な文章を取り上げ、研究を進めてきた。その結果、物語の内容を捉え、課題について自分の思いや考えを言葉で表現することには、一定の成果が見られた。そこで、本年度は説明的な文章を通して読む力を付け、論理的な思考や述べ方を学習する中で、自分の思いや考えをもち、交流を深め、それを生かして表現する学習を創造することに取り組むことにした。それに取り組むためには、基礎的な力「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力を継続的に鍛えることも大切になってくる。また、本年度より全学年が国語科のデジタル教科書を活用することによって、子どもたちの興味や関心を高めることができると考えた。

これらのことに取り組むことは、単に国語科だけの学習にとどまらず、その他の教科・道徳・領域の学習に繋がり、これからの様々な社会の変化に対応できる「生き抜く力」をもった子どもを育てる一助になると考え、本年度の研究主題を設定した。

2. 研究の内容

(1) 授業に関して

①単元構成の工夫

付けたい力が育成される効果的な言語活動の設定とその単元構成

②発問の工夫

児童が深く考える価値がある発問、児童が興味をもつ課題

「どんな課題や発問であれば、思考力を高められるか」

「授業を活性化させるにはどんな課題や発問が適切か」

③交流活動の工夫

自分の考えをもって話し合いに臨み、話し合い（共に学び合う）によって自分の考えが深まるような交流活動

④デジタル教科書や I C T 等の活用

各学年の特徴や教材の特性から工夫した点

(2) 基礎基本の力の向上

①「話すこと・聞くこと」の力を付ける

・朝の会でのスピーチ活動

・「声のダイヤル」「聴型指導」「話型指導」

②「書くこと」の力を付ける

- ・「先生あのね」「日記」
- ・国語タイム（毎週火曜日）での主に視写の取り組み（５月と１２月で記録を取る）
- ・各教科で課題に対する自分の考えなどを理由を明確にして書くようにする

③「読むこと」の力を付ける

- ・音読の方法の工夫や家庭学習での取り組み
- ・言葉遊びや古典等の暗唱

④ 読書活動の充実

- ・全校読書（毎週金曜日の朝の会）
- ・読書ノートを活用や10冊ごとの達成者の張り出し
- ・図書ボランティアや図書委員会の活動の充実及び公共図書館との連携

3. 実践事例

第1学年「いちばんうまく みをまもる どうぶつを かんがえよう」

教材名「どうやってみをまもるのかな」

第2学年「ちっこう百かてんにおくせつめいカードをつくろう」

教材名「ふろしきは、どんなぬの」

第3学年「わたしたちの自然のかくし絵バージョンをつくろう」

教材名「自然のかくし絵」

第4学年「身の回りにある文章の表現の工夫について考えよう」

教材名「広告と説明書を読み比べよう」

第5学年「大阪発祥、和の文化の説明会を開こう」

教材名「和菓子の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」

第6学年「築港の未来をえがこう」

教材名「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」

4. 成果と今後の課題

（成果○と課題●）

- 付けたい力を意識した言語活動を設定することで、単元の構成を工夫し、学習計画を立てることができた。
- 第Ⅲ次で行う言語活動について、指導者やデジタル教科書でモデルを示すことにより、児童自身が第Ⅱ次で学習することの目的意識をもって学習に臨むことができた。
- 発問を工夫することで、児童の思考を深めることができた。
- ペアやグループでの交流により、自分の考えに自信がもてたり、友だちの考えと自分の考えを比較したりして、自分の考えを深めることができた。
- デジタル教科書の活用により、児童が興味をもって学習に取り組むことができた。また、書画カメラを使うことで、自分の考えを書いたものや作ったものを映し出すことで、効果的に表現した物を伝え合うことができた。
- 学校全体で読書タイムや国語タイム等を設けて取り組んだり、日々の「読む・書く・聞く・話す」力を伸ばすための取り組みを実態に合わせて行ったりすることにより、他の学習においても自分の考えを書いたり、発表したりすることができた。
- 児童の思考が深まるような課題や発問を更に工夫していく。
- 児童が自分の考えを書きやすく、考えを引き出すことのできるワークシートやノートを工夫していく。
- 交流の場での支援のあり方をさらに工夫する。